

施策・主な取組シート

基本方向	(5) まちの快適・うるおい空間づくり	基本政策	3) 交通環境の充実
(1) 施策			
名称	3 3 交通体系の充実		
目標	圏央道など広域幹線道路の交通量の変化に合わせ、拠点市街地を結ぶ主要幹線道路の整備や、公共交通の充実を図ることにより、日常生活における移動をよりスムーズなものとするほか、市域内外からのアクセス性を高め、回遊性のある交通ネットワークの構築をめざします。		
現状と課題	<p>本市は、東京湾アクアラインや圏央道、館山道等の結節点に位置することから、今後も市外からの交通量が増えるものと見込まれており、市内の計画道路のうち工事着手に至っていない金田インターチェンジ及び木更津東インターチェンジ周辺やJR木更津駅周辺の道路整備を急ぐ必要があり、特に金田インターチェンジ周辺の休日における渋滞解消が課題となっています。</p> <p>また、高度成長期に整備された道路施設の老朽化に伴う修繕・更新に要するメンテナンス費用の増大が懸念されるため、計画的かつ効率的な維持管理が必要となります。</p> <p>公共交通機関である高速バスは、東京湾アクアラインを活用した東京・神奈川方面への広域移動手段として充実が見られる一方で、地域の生活の足として欠くことのできない生活路線バスの利用者が減少しており、今後の維持・確保が課題となっています。</p> <p>また、JR巖根駅では、千葉・君津間で唯一、総武線快速電車が停車しない駅であることから、岩根地区の通勤・通学者などの鉄道利用者の利便性向上が求められています。</p>		
課題解決の方向性	<p>主要幹線道路の整備促進を図るとともに、市域内外の交通アクセスの向上や地域の安全確保等のため、地域の拠点間をネットワークする道路整備を推進するとともに、金田インターチェンジ周辺の休日における渋滞解消に向け、関係機関と研究・検討を行います。</p> <p>また、道路を安全で安心して利用できるよう、計画的な道路施設の適切な維持管理を行います。</p> <p>公共交通機関を維持・拡充するため、鉄道については、快適で利便性の高い鉄道サービスの提供を引き続きJRに要請する一方で、高速バスについては、さらなる利便性の向上に向け、関係機関との検討を進めます。</p> <p>また、民間路線バスの運行支援を行う一方で、地域主体による新たな交通システムの導入を促進するとともに、路線バスについては、移動ニーズを踏まえた再編や乗り継ぎに配慮したダイヤ編成を働きかけます。</p>		
(2) 主な取組			
No.1	名称	道路網の整備	
	担当課	土木課、管理用地課	
	概要	<ul style="list-style-type: none"> 各地区を結ぶネットワーク網を踏まえた主要幹線道路の整備を行うとともに、市民の日常生活を支える道路整備を推進します。 道路施設の適切な点検を行い、健全な状態を維持することにより、安心して道路を利用し続けることができるよう、計画的、効率的な維持管理を実施します。 	
No.2	名称	公共輸送の充実	
	担当課	地域政策課	
	概要	<ul style="list-style-type: none"> 多様な主体との連携・協働による地域公共交通の仕組みを構築し、地域の需要に応じた新たな交通システムの導入を促進します。 バス事業者と調整し、利用者の移動ニーズを踏まえた路線バスの再編や異なる交通機関、複数の路線等との乗り継ぎに配慮したダイヤ編成等を促進します。 高速バスの乗降場所や運行本数の増加について、バス事業者に働きかけ、高速バスの利便性向上をめざします。 継続的な啓発活動及び市民や企業等に対してのモビリティ・マネジメント等を実施し、公共交通に関する意識の醸成を図ります。 JR巖根駅への総武線快速停車に向けた調査を行い、関係機関との協議を行います。 	

	指標	現状値 (H30)	目標値 (H34)	設定の考え方
施策目標の 実現に関する 指標	橋梁の点検実施数	0橋	182橋	市が管理する246橋の点検を、H35年度までに行う予定であり、目標年度(H34)までに182橋の点検を実施することで、安心して道路が利用できるような適切な維持管理を行ないます。
	路線バス年間利用者数	2,181,778人	2,203,000人	網形成計画において位置付けている「集約拠点」を軸としたバス路線の再編を推進し、路線バス利用者の増加を目指すことにより、路線バスの運行維持へつなげる。 網形成計画策定時において、他市の事例を参考として、目標値を設定した。